

総務委員会

I. 活動目標

会員へのサービス向上のためのシステムや企画の立案を通して、会員の円滑な学会活動、学術活動を推進し、学会全体の活動性を向上させる。

II. 活動計画

1. 各種細則の修正（年齢、任期など）
2. 学会所有著作物に対する使用に関するシステム構築と許認可
3. 日本医学会、厚労省などの諸団体からの周知依頼やお知らせなどの学会員への周知
4. 役員や評議員（新規、更新）申請に関わる疑義への対応

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

1回

委員会あり方検討委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

- ・各委員会の事業計画および活動報告、委員交代および募集状況を掌握し、その活動を支援する。
- ・委員などのCOI確認評価を行う

II. 活動計画

1. 各委員会が提出する、修正事業計画（4月の年度初め：前年度提出された事業計画を修正する場合）、次年度事業計画（秋：予算審議時期）および活動中間報告（秋）、活動年間報告（12月から翌年1月：年報用）の内容を掌握し、必要に応じたフィードバックを行う。
2. 各委員会の委員交代および新規委員募集の有無を掌握し、必要に応じたフィードバックを行う。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

支部あり方検討委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

支部会を活性化する

II. 活動計画

- ・支部学術集会開催（収支含め）、支部セミナー開催、などについて運営要綱を確認し、支部の課題および支部からの提案、を情報共有する。
- ・支部学術集会会長、支部長、支部運営委員、支部連絡協議会メンバー、などの選出方法、選定スケジュール、などについて運営要綱を確認し、支部の課題および支部からの提案、を情報共有する。
- ・各支部の会員状況リストを全国の支部運営委員、支部連絡協議会で共有する

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

1回

学術集会あり方検討委員会

I. 活動目標

総会・支部会を含めた演題登録システムを構築し、学術集会の質を担保できるシステムを作り上げる。

基盤システムと連携した演題登録・査読システムの構築。

学術集会関連アンケートの実施と改修。

集中治療甲子園などの新しい企画を成功させる。

II. 活動計画

1. 総会・支部会を含めた演題登録システムの構築。会員管理基盤システムと連携しながら①キーワードによる登録システム②査読結果feedbackシステムを必須項目として開発を行う。
2. 学術集会後のアンケート
毎年行われている学術集会後のアンケートを行う。アンケート結果を基に学術集会の振り返りを行い、次回以降の学術集会の運営改善につなげる。
3. 学術集会運営要項の改変
これまでに蓄積されてきた学術集会に関連するルールを明文化し、運営要項として制定する。著作権や倫理規定に関しても新しい項目を制定していく。特に学会細則や規則との整合性をとる。必要な項目を改修していく。
4. 支部学術集会では趣意書の統一や運営決算書の提出・確認を行っていく。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

12回

集中治療医学会基盤システム構築委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

会員管理システムの安定運用と改修、また新システムの開発・運用を行っていく。

II. 活動計画

会員管理システムと以下のシステムの連携と安定運用

- 1) 新査読システム
- 2) セミナー管理システム
- 3) 学術集会、セミナー参加登録システム
- 4) 専門医登録システム
- 5) eAPRINのシングルサインオン化

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

全体会議として年に4回程度

小会議は、週に2回以上を行う

ブランディング委員会

I. 活動目標

1. 集中治療医学会のブランド（影響力とイメージ）を向上する。
2. 学術集会・学会イベント・学会資料を目標と評価を持って発信する。
3. 集中治療医学会の認知度を国内・国外において向上し、求心力を高める。

II. 活動計画

- ①集中治療のブランディング活動の目標・マイルストーン・計画を明確にする
・学会ブランド活動としての目標を明確化し、マイルストーン作成と実施を行う

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

開催は、月2回を定期開催とする。必要な場合には臨時開催を適宜行う。

国際交流委員会

I. 活動目標

1. 協定アジア諸国[KSCCM, TSCCM(Thai), TSCCM/TSECCM(Taiwan)]と連携して、集中治療医学の進歩と発展を追求するとともに、協定アジア諸国間の集中治療医の相互理解を深める。
2. 多国間交流の起点として、多国間シンポジウムを企画、実行する。
3. ESICM, SCCM, ANZICSなどの欧米集中治療学会とビジネスMeetingを行う。
4. Joint congressとしてKSCCM TSCCM/TSECCM(Taiwan)を2026年の学術集会で開催する。
5. 国際学術団体からの学術的な情報を学会員に情報を提供する。

II. 活動計画

1. SCCM/ESICM/KSCCM/TSCCMとの定期的なビジネスミーティング開催の準備をする。
議題の準備、お土産の準備、参加者の確認
2. 協定アジア諸国とのジョイント kongress を大会長・理事長と協議の上、運営、開催の支援をする。
2026年3月KSCCM TSCCM/TSECCM(Taiwan)とのJoint開催準備を行う。
3. 多国間シンポジウムとしてASIA Day（韓国、台湾、シンガポール、タイ）を企画する
4. 国際交流に関するホームページ掲載内容をアップデートする。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

著作権対策委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

著作権+個人情報保護指針を検討する

II. 活動計画

著作権+個人情報保護指針の内容を、教科書、セミナーハンドアウト、JICEC、WEBセミナー、学術集会での発表、など毎に検討する

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

評議員選出委員会

I. 活動目標

評議員候補者の審査を行う

II. 活動計画

評議員候補者の審査を行う

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3回（Web会議）

集中治療医療提供体制改革検討委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

学会認定集中治療施設の制度設計と確立

II. 活動計画

上記について討議議論を行う

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

未定

社会保険対策委員会

I. 活動目標

令和8年度診療報酬改定に向けて、内保連・外保連・省庁直接交渉を通じて学会としての要望実現にむけた活動を行っていく。

II. 活動計画

・2024年度に理事会にて最終決定した要望項目を基盤として、外保連・内保連事案を提出するために提案者の提案作成を支援する。・省庁直接交渉が必要な案件に関しては理事会と密に連携して対応にあたる。・他の学会などより共同提案のあった要望に関して、提案の窓口となり、理事会と連携しながら対応に当たる。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

web会議を2回行い、そのあとはメールベースで作業を行っていく。

薬事・規格・安全対策委員会

I. 活動目標

1. 集中治療に関連する医療安全に関する情報の収集、課題の抽出、分析を行う。
2. 集中治療室における転倒・転落発生の防止に向けた対策のアンケート調査結果をまとめ、必要となる対策について検討する。
3. 医療の効率化に向けた領域別タスクシフト推進事業の評価

II. 活動計画

1. 集中医療に関連する医療安全（医薬品安全、医療機器安全等を含む）に関する情報を収集し、課題があれば分析・検討のうえ、学会員に向けて情報を提供する。
2. 集中治療室における転倒・転落事例発生状況と発生防止に向けた対策に関するアンケート調査結果を分析し、対策の必要性ならびに求められる具体的な対策について検討する。
3. 医療の効率化に向けた領域別タスクシフト推進に関連するセミナーを開催する。
⇒第53回学術集会でのパネルディスカッション開催ならびに第2回Zoomウェビナー「集中治療領域における特定行為研修修了者の活用」の開催
4. 医療の効率化に向けた領域別タスクシフト推進事業の評価について、シンポジウム実施後のアンケート解析を中心に実施する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

臨床倫理委員会

I. 活動目標

1. 「救急・集中治療における終末期医療に関するガイドライン～3学会からの提言」の改訂（緩和医療学会を加えた「4学会からの提言」への発展）。
2. 教育講座「集中治療と臨床倫理—倫理的・法的・社会問題（ELSI）への対応」の内容刷新（改訂版ガイドラインの内容を盛り込む。救急・集中治療終末期の緩和ケアに関する講義を加える。4日間コース→3日間コースへの再編）。
3. 「集中治療における患者家族のこころのケア講座」の継続、アップデート。
4. 3学会の終末期レジストリの遂行（新プロジェクトとして仕切りなおす）。

II. 活動計画

1. 終末期ガイドライン改訂：2023年7月集中治療学会理事会にて改定することに関して承認済み。救急学会、循環器学会、緩和医療学会に協力依頼文を郵送し、各学会より協力に関して承認済み。各学会のガイドライン作成メンバーの理事会承認済み。ガイドライン作成メンバーとデルファイ法でガイドライン原案を推敲し、今年度中に最終版を確定する。
2. 従来の4日間のコースから、3日間のコースに再編成を検討中。
3. 2024年度もオンデマンド講義+対面式グループワークでの開催。
4. 3学会の終末期レジストリのパイロットスタディに参加。研究参加施設の募集に協力。ただし、改訂版ガイドラインが今年度発行される予定でもあり、新規プロジェクトとして仕切りなおすことも検討している。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

終末期医療に関するガイドライン改訂委員会

（Ad Hoc/日本集中治療医学会 日本救急医学会 日本循環器学会 日本緩和医療学会 合同）

I. 活動目標

「救急・集中治療における終末期医療に関するガイドライン～3学会からの提言」の改訂（緩和医療学会を加えた「4学会からの提言」への発展）。

II. 活動計画

当委員会メンバーとデルファイ法でガイドライン原案を推敲しWeb会議で原案を作成していく。原案をもとに、対面式会議で原案を確定する。4学会（救急、循環器、緩和医療、集中）の4学会の年次学術集会で当ガイドラインに関するシンポジウムを開催し、各学会員の前での公開討論を行う。パブリックコメントを集める。上記過程を経てガイドラインを最終版とし、年度内に公開する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

ICU機能評価委員会

I. 活動目標

1. 学会認定集中治療施設の機能評価を実施する
2. JIPAD事業を推進する
3. 診療の質指標を開発する

II. 活動計画

1. 集中治療施設の機能評価
 - ・本邦の集中治療提供体制を明らかにすべく集中治療施設調査を実施する。
 - ・調査内容には、学会認定集中治療施設の要件を盛り込む。
 - ・報告書を作成し、学会内外（含む厚生労働省）に情報開示・共有を行う。
2. JIPAD事業
 - ・NPO法人ICONと協力して、より精度の高いデータベースをめざす。
 - ・年会費収入の増加を有効に利用し、できるだけ業務の外注化をはかりワーキンググループメンバーの負担を軽減する。
 - ・引き続きウェブページの充実、データ利用の推進による研究の拡大、DPCデータの取り込みなどの新しい事業に取り組む。
 - ・新たなワーキンググループメンバーを募集する。
 - ・専門医制度や学会の基盤システムにも活用できるようJIPADの内容を進化させる。
 - ・学術集会にてワークショップ（JIPAD四方山話）を企画する。
3. 診療の質指標開発
 - ・診療の質指標開発ワーキンググループ（2017年発足、2023年3月解散）の活動成果を論文化する。
 - ・JIPAD参加施設においてDPCデータを収集し、WGによって開発したQIを測定する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3~5回

災害時の集中治療検討委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

- 1) 「災害時の集中治療室（2020年）」発行後の全国ICUの現状調査
- 2) 「災害時のリバーストリアージ・ICUエスカレーションの考え方」作成
- 3) 能登半島地震におけるICUの現状調査

II. 活動計画

- ・「災害時の集中治療室（2020年）」発行から4年経過を踏まえ、全国ICUにおける体制整備の現状調査を行う。
- ・災害時の、横断的トリアージ（transvertical triage）と縦方向トリアージ（longitudinal triage）の概念について解説資料を作成する。
- ・能登半島地震におけるICUの活動経験を調査し、具体的活動方針策定の基盤とする。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

委員会打合せ 3回

臓器提供・臓器移植検討委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

地域ドナーコーディネーター養成コースの開発と運用を進める。また、厚生労働省や他学会、JOTとも連携を密にし、全国的教育基盤を開発する。

II. 活動計画

- ①地域ドナーコーディネーター養成コースの開発。具体的には下記項目を取り込む
（臓器提供の現状・臓器提供の適応判断・臓器提供を見据えた患者管理・患者家族ケア/臓器提供の情報共有・臓器提供決断後の患者家族ケア・院内・地域での体制整備）
- ②厚生労働省、JOT、他学術団体との連携を行いつつ、教育コースを広める。
- ③臓器提供、臓器移植に関わる本学会の意見を集約し、公的に発信する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

WEB会議は6回/年程度を想定。教育コースは年4回程度を想定

PICS対策・生活の質改善検討委員会

I. 活動目標

本年度は本委員会で以下の3つの活動目標の達成を目指す。

- 1) 委員会研究の英語論文化の加速と新規PICS臨床研究の創成
- 2) PICS対策の保険収載に向けた活動の推進
- 3) 一般市民・医療従事者におけるPICSの啓発活動

II. 活動計画

- 1) 委員会研究の英語論文化の加速と新規PICS臨床研究の創成

現在進行中の委員会研究の論文化を推進し、新規英語論文の受理を目指すことで、PICS対策の保険収載化に向けたエビデンス創生を加速したい。さらに各研究チーム体制を整備し、いくつかの研究シーズを論文化につなげるシステムづくりも行いたい。

- 2) PICS対策の保険収載に向けた活動の推進

1) の研究成果と活動実績をもとに、PICS対策の保険収載に向けた活動も推進していきたい。今後もPICS委員会の研究成果を用いてPICS対策の保険収載に向けた活動を展開していきたい。

- 3) 一般市民・医療従事者におけるPICSの啓発活動

PICSホームページの更新を行い、最新知見を共有することで一般市民・医療従事者におけるPICSの啓発活動に努めていく。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

Rapid Response System検討委員会

I. 活動目標

国内のRRSの実態把握の継続と普及活動を実践する

II. 活動計画

1. RRS運用指針 小児版等の改訂作業
2. RRSとRRSレジストリの普及とその効果に関してレジストリーの研究推進を行う。
3. RRS全国調査（継続）
4. RRS出動スタッフ養成コースの実施

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

ECMOプロジェクト委員会 (Ad Hoc)

I. 活動目標

我が国における質の高い安全なECMO診療システムの構築を目指す

II. 活動計画

- ・関係学会（日本救急医学会、日本呼吸療法医学会、他）と協力し、全国の集中治療室にECMO診療に関するアンケート調査を実施する
- ・アンケート調査結果をもとに、理想的なECMO診療システムの構築を目指す

III. 会議開催数 (Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

Web会議システムを用いて、3回から4回の会議を行います

セミナー管理委員会

I. 活動目標

セミナー開催時、学会の教育方針との整合性、他のセミナーとの競合性（時期的）、予算および収支の適正化、多職種のセミナーや各支部会からのセミナーの本会委員会との内容の整合性を確認する

II. 活動計画

1. 本会委員会企画のセミナーの日程の確認（他のセミナーと競合している場合は、助言する）、予算作成に際しての助言を行う。
2. 支部会企画セミナーの本会各領域教育内容との調整を助言する。
3. セミナー申請フローの周知、マニュアルの整備をおこなす。
4. 委員会以外からの申請セミナーの適切性の審議を行う。

III. 会議開催数 (Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

4回

セミナー企画委員会

I. 活動目標

WEBを用いたセミナーとe-learningの整備をする

II. 活動計画

1. リフレッシュセミナーの安定的な開催する
2. JICECの見直しを約20%に行い、新たな項目の追加も行う
3. 専門医機構の要件である医療安全、倫理、感染のセミナーを関連委員会と調整し検討する

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3回

専門医制度・審査委員会

I. 活動目標

学会認定制度延長による機構認定専門医制度と学会認定専門医制度の並行運用。

II. 活動計画

1. 学会認定専門医新規申請者の書類審査/筆記試験合否の判定
2. 学会認定専門医更新申請者の書類審査と合否の判定
3. 学会認定専門医研修施設の更新申請の審査
4. 機構認定専門医研修施設の新規申請の審査
5. 機構認定専門医研修施設の更新申請について検討
6. 機構認定専門医申請の審査

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

11回

専門医試験委員会

I. 活動目標

専門医の資質に値する知識を確認する上で必要な試験制度を整えることを目標に、専門医試験問題作成及び過去問題の掲示を行う。

II. 活動計画

1. 2025年度専門医筆記試験問題作成

年7回の参集型委員会で問題を校閲し、優良問題を作成する。

試験終了後は問題を再検討し、2025年度専門医試験問題、正解として掲示する。

2. 過去問題集制作

2023年、2024年の試験問題解説の見直しを行い、2025年夏頃出版予定とする。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

8回

専門医講習審査委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

専門医講習審査を迅速かつ円滑に運用できるシステムの構築

II. 活動計画

e-ラーニングによる専門医講習における確認テストの作成手順書を作成する

サブスペシャルティ領域専門研修制度における専門医共通講習の申請方法をホームページに掲載する

審議を重ねる中で課題を抽出し解決策を練る

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

申請毎にメール審議の予定

超音波画像診断認定制度委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

1. 認定試験を行う（CBT様式：CBTソリューションズ（株））

II. 活動計画

1. 認定試験作成WGにて、試験問題を作成して、委員会で選定する。
2. 認定試験を行う（CBT様式：CBTソリューションズ（株））
3. 他団体主催超音波診断ハンズオンセミナーの認定

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

学会認証看護師制度検討委員会

I. 活動目標

集中治療認証看護師制度の第4回試験の適切な運営が行われる。

集中治療認証看護師認証試験の受験者数の安定的な確保がなされる。

次年度以降に向けた更新制度を含む制度および教育システムの見直しによる集中治療認証看護師制度の改善が行われる。

II. 活動計画

1. 2025年度4月 集中治療認証看護師試験の公募案内の検討
安定的な受験者確保に向けた広報活動の実施
2. 2025年度4-9月 集中治療認証看護師試験の試験問題の作問（不適切問題を減らすためのシステムの見直しおよび実施を含む）
3. 2025年度4-10月 第3回集中治療認証看護師試験の適切な運営に向けた検討
・実施フローの明確化、当日運営チェックリストの作成、当日運営方法の再検討等
3. 2025年度11月 第3回集中治療認証看護師試験
4. 2025年度12月 次年度に向けた教育システム（セミナー含む）の見直し
5. 2026年度1月 集中治療認証看護師(ICRN)または集中治療認証看護師－知識認証(ICRN-K)の認証（適否の理事長への報告、認証書発行など）
6. 2026年度1-3月 次年度 試験準備(ポスター作成および配布等含む)
7. 随時：学会および支部会等の研修主催者より、本委員会へ提出された更新のための研修ポイントの認定作業
8. 次年度にむけた試験のあり方を他の認定制度の委員会と連携して検討を行う（CBT等より効率的な試験運営案の検討）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

Web会議10回、メール審議10回程度を予定、別途試験問題作問WG 3回、試験監督1回

専門臨床工学技士制度委員会

I. 活動目標

専門臨床工学技士の認定を継続して行う。被認定者の増加を図る。

II. 活動計画

1. 認定申請の受付と書類審査
2. 認定試験問題の作成および試験の実施
3. 認定審査および合否発表、認定証の交付

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

集中治療専門臨床工学技士試験委員会

I. 活動目標

専門臨床工学技士認定試験問題の作成と適正実施（不適切問題の回避、適切な難易度）
作問ルールの標準化と作問・ブラッシュアップ会議の省力化

II. 活動計画

1. 試験問題の作成、ブラッシュアップ
2. 試験の実施
3. 不適切問題、合否判定基準の検討
4. 解説集発行に関する是非の検討

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

5回

集中治療理学療法士制度委員会

I. 活動目標

集中治療理学療法士認定試験の試験問題を作成する。
第3回集中治療理学療法士認定試験を実施する。
集中治療理学療法士の第3回認定を行う。
集中治療理学療法士認定研修施設の検討を開始する。

II. 活動計画

集中治療理学療法士認定試験問題第1回締め切り（4月11日）
集中治療理学療法士認定試験問題第2回締め切り（5月2日）
集中治療理学療法士認定試験問題確認（5月16日）
集中治療理学療法士認定試験（10月18日）
集中治療理学療法士認定研修施設検討会議 2回（web）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

5回

集中治療専門薬剤師制度委員会

I. 活動目標

集中治療専門薬剤師制度の適正かつ、円滑な運用を図る。
集中治療専門薬剤師制度規則および施行細則の運用を管理し、運用にあたって生じた疑義を処理するとともに、集中治療専門薬剤師の認定、更新、および登録に関する業務を担当する。

II. 活動計画

- ・集中治療専門薬剤師申請者が提出した申請書類の審査を行う。
- ・申請要件を満たすと認められる申請者を対象に試験を実施する。
- ・集中治療専門薬剤師申請者に対して申請書類の審査および試験結果に基づいて適否を決定し、その試験結果を理事長に報告する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

集中治療看護委員会

I. 活動目標

1. 学会のビジョンに沿った看護師の活動計画と実行に向けた調整を図る。
2. 支部会と連携・調整を図り、看護師の臨床研究を支援するためのセミナーの企画や支部学術集会への看護師の参加を促すための取り組みを検討する。
3. 集中治療看護に関連する調査を企画し実施する。
4. 集中治療看護に関する施設調査を実施し、集中治療看護の実態を把握する。
6. 看護師が関与する各種委員会と情報を共有し、必要に応じて相談に対応する。
7. 必要に応じて会員からの意見を収集し委員会活動に反映させる。
8. 診療報酬改定に係る看護関連の内容を検討する。
9. 看護師のeAPRINの受講を促す取り組みを検討する。

II. 活動計画

1. 学会のビジョンに沿った看護師の活動の方向性に関して討議する。
2. 支部会代表者と定期的な情報交換の機会をもつ。
3. 支部学術集会において、多職種の研究を支援するセッションを企画し、実施する。
4. 集中治療看護に関する研究の優先度に関する研究と、HWEに関する研究を実施し、その成果を公表する。
5. 集中治療専門医研修施設を対象に、集中治療看護に関する別途調査を実施、HPや学術集会の機会に公表する。
8. 診療報酬改定に向けた看護関連の内容を検討し案を提出する。
9. 看護師のeAPRINの受講率を上げるための取り組みを検討し実施する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

看護教育委員会

I. 活動目標

1. 学会における看護教育活動の方向性を定めること
2. 集中治療に携わる看護師に必要なコンピテンシーを踏まえた教育を提供すること
3. 教育的手法を用いて、集中治療における看護の質を向上させること

II. 活動計画

1. 学会における看護教育の活動の方向性に関して討議する。
看護協会や関連学会の動向、集中治療領域の問題や課題について会議にて検討する。
2. 集中治療に携わる看護師に必要なコンピテンシーを育成するための教育内容の検討(セミナー内容へ反映)
3. 多職種を対象とした、下記の(web)セミナーを開催する。(開催時期は講師との調整にて変更あり)
 - ①ICUセミナー（初級）2回（6月、10月）
 - ②ICUセミナー（中級）2回（9月、12月）
 - ③意思決定支援プロセスセミナー ベーシック2回（6月、10月）、アドバンス1回（11月）
 - ④医療安全セミナー1回（8月）
 - ⑤重症患者の睡眠に関わるセミナー（6月）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

5回

集中治療臨床工学委員会

I. 活動目標

- ・ 臨床工学技士集中治療テキストの改訂、刊行
- ・ 集中治療CEセミナーを開催する。
- ・ 臨床工学技士集中治療業務実態調査2025を実施する。

II. 活動計画

- ・ 臨床工学技士集中治療テキストの執筆依頼、査読、編集を行い、2025年中に刊行を予定とする。
- ・ VA-ECMOの使用における臨床工学技士の業務内容について実態調査を行い、ガイドライン作成に繋げる。さらに2026年度診療報酬改定に向けたエビデンスを構築する。
- ・ ベーシック編とアドバンス編それぞれ1回ずつ実施する。多職種向けにICUの設備、安全管理に関するセミナーを実施する。
- ・ 日本止血学会と共同でACT測定マニュアルの刊行を予定とする。
- ・ 将来のセミナー化を見すえた無料ミニ動画を作成する

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

10回程度

集中治療薬剤委員会

I. 活動目標

1. 集中治療薬剤師の質的向上
 - (1) 集中治療薬剤師の質的評価の検討
2. 教育活動
 - (1) 集中治療薬剤セミナー：年1回のセミナーを開催する。
 - (2) 学術集会：集中治療薬剤委員会からの教育講演，シンポジウム，パネルディスカッション等を企画し，提案する。
3. 専門育成：集中治療専門薬剤師制度の運営を集中治療専門薬剤師制度委員会と協同し、広報していく。

II. 活動計画

1. 集中治療専門薬剤師制度の周知
集中治療専門薬剤師制度を集中治療専門薬剤師制度委員会と協同し，より多くの薬剤師に専門薬剤師制度を知ってもらうために広報活動を行う。
2. 集中治療における薬剤師の質の向上
集中治療室の薬剤師の質を評価するために、Quality Indicator: QIを議論し、集中治療薬剤師の質的評価を行うことで現状把握を行う
3. 集中治療における薬剤の適正管理に関する教育
集中治療薬剤セミナーを年1回として企画し，運営する。集中治療薬剤セミナーを開催し，日本集中治療医学会からの薬剤の安全管理を考える機会を提供する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

集中治療PT・OT・ST委員会

I. 活動目標

1. 集中治療期リハビリテーション職種の質の向上を図る
2. 作業療法士、言語聴覚士に対する集中治療期リハビリテーションの認知度の向上
3. 集中治療に携わる理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の会員数維持・増加を図る

II. 活動計画

1. 集中治療に携わる作業療法士のミニマムスタンダードの策定を行う
2. 作業療法士・言語聴覚士向けのセミナーの開催
3. これらを踏まえ集中治療に携わる理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の会員数維持・増加を図る
4. 昨年実施したハンズオンセミナーの再考を行い、来年度以降に実施する

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

5回

集中治療リハビリテーション委員会

I. 活動目標

ガイドライン委員会と連携してガイドラインの啓発・普及、リハビリに関わるチーム医療の推進、早期離床リハビリの普及と啓発に向けたセミナーやハンズオンなどを行う

II. 活動計画

リハビリテーションガイドラインに基づいたセミナーを2回開催する
対面型のハンズオンを含めた知識と技術の向上を目的としたセミナー
オンデマンド配信による知識向上、最新情報の共有を目的としたセミナー

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

循環器集中治療委員会

I. 活動目標

日本集中治療学会会員に対する循環器集中治療に関する知識、技術のレベルアップをはかること。

一般市民に対して循環器救急体制から一環した院内治療までの重要性を啓蒙すること。

日本循環器病学会・日本救急医学会・日本臨床救急医学会など関係する学会と連携し上記目標を達成すること。

II. 活動計画

1. 学術集会における循環器関連企画の立案と推進

以下の学術集会において循環器集中治療に関する企画を検討し、テーマの選定や座長・演者の推薦を行う。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

5回（web4回 対面1回）

小児集中治療委員会

I. 活動目標

2024年度の活動を継承し、小児集中治療にかかる諸問題について検討し、わが国の小児集中治療領域の臨床・教育・研究の向上に寄与する。日本小児集中治療連絡協議会（Japanese Association of Paediatric Intensive Care; JAPIC）の活動をより活性化して、日本小児科学会、日本小児救急医学会、日本小児麻酔学会・小児循環器学会小児循環器集中治療研究会・小児集中治療研究会等との連携を深める。集中治療専門医の基本領域となる日本小児科学会との集中治療にかかる合同委員会を継承し、わが国の小児集中治療にかかる活動を一本化してゆくことを、今後の中心的課題としていきたい。また、少子化や疾病構造の変化、医療提供体制の変化、物価や人件費の高騰が進む中で、重症小児のための医療提供体制や診療報酬のあり方について検討し、発信することも最重要課題の一つとしたい。

さらに、看護師はじめ多職種関連の検討事項も活性化させてゆく方針である。

II. 活動計画

1. 日本小児集中治療連絡協議会

(Japanese Association of Paediatric Intensive Care; JAPIC)

- ・災害支援WG, 新興再興感染症WG, 診療報酬WGの活動を継続する。
- ・新たなJAPIC施設参加の呼びかけ、施設調査はじめ各種情報収集を実施する。
- ・基本的にはメール・電話・テレビ会議等で完結する方向であるが、活発な議論を促すために対面での会議も検討する。
- ・施設調査継続と年報発行、協議会開催回数を年間複数回とする。
- ・国際多施設共同研究にかかる情報共有強化と参加強化、JIPAD加入促進も引き続き行う。
- ・関連他委員会とも積極的に情報共有を行う。

2. 小児集中治療部設置のための指針改訂

- ・ICU機能評価委員会, 小児科学会と連携して改訂する。

3. 当学会以外での小児集中治療関連活動との連携

- ・日本小児麻酔学会、小児循環器学会小児循環器集中治療研究会、小児集中治療研究会との連携を進める。
- ・日本小児科学会との連携をさらに強化する。日本小児科学会小児救急・集中治療委員会（旧称小児救急委員会）をカウンターパートとした当委員会との合同委員会は専門医制度の側面からも非常に重要であり、年2回開催を継続する。

4. 小児重症呼吸器感染症（pediatric SARI）

- ・社会状況を注視しつつ柔軟に本活動を継続する。JAPIC以外の重症小児の把握が課題であり、小児科学会との連携や、成人と小児の混合ICUに入室した小児症例の把握など、解決に向けて引き続き取り組む。

5. 搬送ワーキンググループ

- ・最終目標：集中治療を必要とする重症小児が、小児専門搬送チームによる搬送により然るべき施設で最善の治療が受けられるように、全国的な搬送システムを構築すること。

6. 各種調査・他

職域背景調査、小児集中治療領域にかかる看護関連研究にかかる議論を継続する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

神経集中治療委員会

I. 活動目標

疾患横断的に集中治療を担当するすべての医療職が、常に重症の脳・神経疾患に対する治療と「二次性脳障害の防止」について考え、実践できる環境を整え、普及・啓発していく

II. 活動計画

1、委員会の開催、2、ガイドライン、3、RCT、4、ハンズオンセミナー、5、若手動画コンテンツ
6、ホームページ、7、若手セミナー、8、長期予後registry、9、ACPに加えて基礎研究とのコラボ(Neuroscience), 脳外科、てんかん専門家との関係強化, 保険承認、保険点数収載、を敗血症関連脳障害研究を検討する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

感染管理委員会

I. 活動目標

感染管理に関する教育・啓発活動の仕組みを構築し、集中治療における感染管理、抗菌薬適正使用、感染管理サーベイランス、および管理ネットワークを強化する、

II. 活動計画

1. WHO手指衛生キャンペーンの参加：2018年から継続参加しているWHOグローバルキャンペーン。他学会・組織と共同で日本語訳ポスターを作成し、これまでと同様に学会評議員に対して完成したポスターを印刷して配布する。日本集中治療医学会として、集中治療室における多職種の手指衛生管理への教育に参画する。
2. 集中治療スタッフのための感染対策セミナーの実施：ICUにおける感染予防や感染症診療の教育と情報共有を目的として、「集中治療スタッフのための感染対策セミナー」の実施を継続する。委員会メンバー、学会員を中心とした専門家によるレクチャーおよびケースディスカッションにより、最新の知見を共有する。テーマはホットトピックを中心として、医師だけでなく看護師や薬剤師などの多職種連携を目標とした内容とし、集中治療従事者における感染管理の理解を深める。
3. Train the Trainers (TTT) ～WHO 手指衛生多角的戦略に基づく手指衛生指導者育成セミナー～の実施：本セミナーは、手指衛生の感染管理指導者を対象として、2020年より日本環境感染学会等との連携として開始された。集中治療領域の感染管理の教育指導にあたる人材育成を目的とし、世界保健機関の指導下での連携となる。日本環境感染学会との分担協賛金として、全予算額50万円の半額を折半して運営される。
4. ICD講習会の企画と運営：日本集中治療医学会として、学術集会におけるInfection Control Doctor (ICD) 講習会の企画と運営を行う。日本集中治療医学会に所属するICD資格取得、また資格継続の単位取得のための支援とする。
5. ICU領域の感染管理・抗菌薬適正使用関連のネットワーク強化：全国のICUにおける医療関連感染症の発生率や抗菌薬の使用状況などの感染予防管理を高めることを目的として、集中治療領域の感染症サーベイランス事業との連携、JIPADの利活用などのサーベイランス事業を仕組み化する。
6. 学会関連研究：ICUにおける抗菌薬使用料調査など、日本集中治療医学会にとって意義の深い感染管理の研究の情報収集にあたり、日本集中治療医学会および理事会、および会員の皆さまへの情報発信とする。
7. プラクティカルガイドラインの策定検討：最新の知見を共有するプラクティカルガイドラインの必要性を検討し、発行準備を進め、集中治療領域における感染管理の基盤形成を強化する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

周産期集中治療委員会 (Ad Hoc)

I. 活動目標

本会が関与すべき周産期の病態・疾患に関して、搬送、治療、医療機器、看護における指針および教育目標を策定する。

II. 活動計画

2025年度

4月：メール審議で、「指針および教育目標」の執筆に係る節の責任者を決定する。

5月：WEB会議で、項の執筆者および執筆要項を決定する。

6月：執筆者に執筆依頼をメールで送付する（10月1日執筆期日）。

10月：WEB会議で、初稿を確認し、追記・修正等を審議する。

12月：メール審議で初回の校正稿を確認する。案に対して、関連学会からの意見を募る。

1月：WEB会議で、関連学会からの意見を審議し、案を確定する。

2月：メール審議で2回目の校正稿を確認し、委員会案として確定する。

3月：委員会案を理事会に上申する。

2026年度

4月：理事会の承認が得られたら、会員向けのパブリックコメントを募集する。

5月：WEB会議で、パブリックコメントを踏まえた最終稿を確定させる。

6月以降：PDFによる出版として、指針および教育目標を正式に発行する。

III. 会議開催数 (Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

3回

プラットフォーム研究検討委員会 (Ad Hoc)

I. 活動目標

心停止後症候群に対して複数のランダム化比較試験を並行して検討するプラットフォームを用いた臨床研究体制を整備する。

II. 活動計画

○プラットフォームの基盤構築

- ・ コアプロトコルの作成
- ・ 各ドメイン（個々のRCT）の調整
- ・ アンケート調査を実施
- ・ 研究実施のための実務/解析業務の調整
- ・ EDC作成

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

web会議で委員会ワーキンググループ合同会議を週に1回程度開催する。

ダイバーシティ委員会 (Ad Hoc)

I. 活動目標

日本集中治療医学会の会員のダイバーシティを反映した学会の制度設計を行うとともに、日常の業務・職場環境でのダイバーシティ実現を阻んでいる問題点の解決も目指した活動を行う。

会員のダイバーシティの反映とは、男女共同参画、若手の登用、多職種の参画、地域の多様性の反映、子育て・介護など人生のさまざまなフェーズでも継続可能な環境・制度、が実現されていることである。

2025年度は2024年度までの活動目標および計画を継続しながら、学術集会への子供連れ可能の提言や、学生・研修医への集中治療医学の教育に関する調査やセミナー、支部活性化に向けてのダイバーシティの実現に力を入れる。

II. 活動計画

- ・ダイバーシティ実現へ向けての学会への提言
- ・ダイバーシティ実現へ向けての現状や希望に関するアンケート結果の論文化
- ・学術集会における託児サービスに関する各学会の現状に関するアンケート結果のHPでの公表と論文化
- ・ダイバーシティ委員会HPの更なる充実
- ・学術集会での企画立案・運営
- ・若手集中治療医を増やすための学生や研修医へのセミナー、学生や研修医へのキャリアプランセミナー
- ・学生や研修医への集中治療医学の教育に関する調査
- ・学会におけるダイバーシティの現状のデータ蓄積
- ・年次学術集会における座長や特別セッション演者の男女比率、多職種登用、年齢分布、プログラム委員会メンバーの年齢分布などのデータの蓄積
- ・支部学術集会におけるダイバーシティの実現のためのデータ収集（支部ごとの司会者等の男女比、年齢分布、職種別等）
- ・学術集会への子供連れの参加の各種トライアルの実施と課題の検討
- ・本委員会の制度設計の指針等の明示

III. 会議開催数 (Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

6回

U35プロジェクト運営委員会

I. 活動目標

学術集会での企画や他学会のコラボレーションの機会を引き続きいただいている。参加メンバーが増えてきたため、より多くのU35メンバーが活動できるような機会を作る。また、U35メンバーが学術集会に参加しやすい体制を整える。

II. 活動計画

- ・ 第53回学術集会や地方会でのU35企画の立案・運営
- ・ KSCCM, ESICMとのコラボレーション企画
- ・ U35主体のセミナー企画
- ・ 他学会へのブース出展
- ・ 全体会議での他職種Webinarの企画
- ・ 学術集会におけるU35活動に対する委任状の作成

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

毎月第2水曜日に全体Web会議（年24回）

JICRG・学会主導共同研究推進会議

I. 活動目標

JICRG endorsed 研究を遂行できるよう支援する

II. 活動計画

JICRG endorsed 研究を遂行できるよう支援する

JICRG approved 研究の審議を継続して遅滞なく行う

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

CTG(Clinical Trial Group)委員会

I. 活動目標

日本の集中治療領域に関する研究を支援する活動を行う

II. 活動計画

- ・ 2025年度CTG委員会研究助成金の公募と審査を行う
- ・ 多施設研究拡大支援応募研究の審査を行う
- ・ CTG meeting（研究カンファレンス）の開催方法を検討する

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

研究倫理委員会

I. 活動目標

研究倫理の啓発・普及などの教育活動を行う。

会員の研究活動の不正の疑義が生じた場合に審査を行う。

II. 活動計画

1. 学術集会における発表および研究に関する不正疑義の事案を調査し、レポートを作成する。会員の今後の研究倫理の参考となるようにデータを集積する。
2. eAPRIN JSICMコース受講の促進を図るためのシステム整備と定期的アナウンスを行う。
3. 研究倫理に関するアナウンスとともに、研究倫理に関するよくある質問（FAQ）の改訂を行う。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

英文機関誌編集委員会

I. 活動目標

国内外の編集委員体制を強化したうえで、論文投稿のグローバル化を図り、アジアを拠点とする集中治療国際誌として、より一層の影響度の向上を図る

II. 活動計画

1. 編集体制強化

迅速かつ的確な査読は質の高い論文掲載には必須であり、国内外の編集委員体制を強化してJournal of Intensive Careの影響度の増強を図る

2. Reviewer of the year表彰

質の高い論文掲載に必須な「的確な査読」を頂いた会員に敬意を表し、表彰する

3. Highly cited article表彰

Journal of Intensive CareのJournal Impact Factor向上に貢献した論文を投稿した会員に敬意を表し、表彰する

4. Journal of Intensive Care賞およびJournal of Intensive Care奨励賞の推薦

会員の本機関誌への論文投稿を一層高めるため、優れた論文を優秀論文選考委員会に推薦する

5. 世界への広報

Social Mediaの活用など様々な手段を通じ、世界の集中治療領域の医療者研究者へのJournal of Intensive Careの認知度を高める

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3回

機関誌編集・用語委員会

I. 活動目標

1. 的確でスピーディーな編集作業を行う。
2. 学会員へ有益な機関誌を提供する。
3. 用語集の改訂を実施する。

II. 活動計画

1. オンライン和文機関誌の発行：
日本集中治療医学会雑誌（随時発行）
学術集会号（年1回 学術集会会長が編集）
2. 機関紙編集・用語委員会（定例4年回・臨時随時）の開催 ※すべてWeb開催
3. 日本集中治療医学会雑誌賞の推薦
4. Reviewer of the yearの表彰
5. 用語集の改訂、ウェブ化
6. eAPRIN必修化に伴う制度変更の実施状況の確認

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

優秀論文賞選考委員会

I. 活動目標

1. 応募論文（優秀論文賞、奨励賞、日本集中治療医学会雑誌賞、Journal of Intensive Care賞）を厳密かつ慎重に審査し、4論文を委員会として理事会に推薦する。
2. 優秀論文賞、日本集中治療医学会雑誌賞、Journal of Intensive Care賞の中から最も優秀な臨床分野の研究論文を平澤博之記念賞（最優秀論文賞）を委員会として理事会に推薦する。

II. 活動計画

1. 優秀論文賞の推薦
2. 奨励賞の推薦
3. 日本集中治療医学会雑誌賞の推薦
4. Journal of Intensive Care賞の推薦
5. 平澤博之記念賞（最優秀論文賞）の推薦
6. 必要に応じて内規や申し合わせを改訂する

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

1回

集中治療を要する重症患者の広域搬送ガイドライン作成委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

ガイドラインの制定及び令和4年度診療報酬改定における集中治療を要する重症患者の救急搬送診療料の項目の追加を踏まえ、集中治療を要する患者の搬送に必要な知識の習得を推進し、重症患者搬送チームの養成・質の均てん化を目標とするとともに、本邦における重症患者搬送体制のさらなる体制整備を図る。

II. 活動計画

- 1) ガイドラインの発刊
- 2) ガイドラインの普及（学術総会等におけるシンポジウム等の開催）
- 3) 学術集会等におけるセミナーの開催
- 4) 学会員等に対する重症患者搬送に係る実態調査

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

日本版重症患者の栄養療法ガイドライン検討委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

日本版重症患者の栄養療法ガイドライン2024の作成を行い、その普及を行うこと

2024年度は作成したガイドラインを英語版日本語版ともに発刊し、栄養療法ガイドラインアプリを公開、これらの普及活動と今後の急性期栄養療法の発展を検討する。

II. 活動計画

2023年度に作成したガイドライン2024を発刊するため、日本語版および英語版を作成し、日本集中治療医学会雑誌およびJournal of Intensive Care誌にアクセプトとなった。また同じく開発した栄養療法ガイドラインアプリを公開した。今後はガイドラインを早期公開しダイジェスト版を作成発刊、アプリを昇華させ、ガ

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

100回以上

神経集中治療診療ガイドライン作成委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

神経集中治療診療ガイドライン2024を公開する

II. 活動計画

神経集中治療診療ガイドライン2024を完成させる

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3回

日本版敗血症診療ガイドライン2024特別委員会（Ad Hoc/日本集中治療医学会・日本救急医学会合同）

I. 活動目標

JSSCG2024発表後の効果を調査する

JSSCG2028準備委員会を開催する

II. 活動計画

JSSCG2024の普及度合いや遵守率，学習効果を調査し、論文化する

JSSCG2028の委員長、コアメンバー、WGメンバー、アカデミック班員を決める

JSSCG2028特別委員会へ引き継ぐ

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

参集型は開催しない、WEB会議は数回程度を見込み

敗血症広報ワーキンググループ

I. 活動目標

本ワーキンググループ（WG）のミッションは、敗血症に関する正確かつ実践的な情報を、一般開業医や医療従事者に向けて広く発信し、敗血症診療の標準化と患者アウトカムの改善に貢献することである。敗血症は早期認識と初期対応が生死を左右する疾患であり、限られた専門医だけでなく、地域医療の第一線を担う医師や医療従事者にとっても正しい知識と行動指針の共有が不可欠である。本WGはその課題に対し、啓発と教育を通じて診療の底上げを図ることを使命としている。

このミッションのもと、今年度は三つの柱を中心に活動を展開する。第一に、敗血症診療ガイドラインの要点を簡潔にまとめた教育コンテンツを作成・発信し、他学会や関連団体と連携したシンポジウムやワークショップを通じて、ガイドラインの普及を図る。第二に、「敗血症.com」を日本集中治療医学会の公式サイト内に再構築し、開業医や看護師を含む非専門医療者でもアクセスしやすく、理解しやすい情報発信を実現する。また、ブランディング委員会と連携した広報活動により、敗血症への社会的認知を高める。第三に、JaSAによるWebセミナーを継続し、日本救急医学会や日本感染症学会と連携しながら、合同委員会を通じた学術的発信を強化することで、学際的な連携と教育基盤の強化を目指す。

以上の取り組みにより、今年度は「誰もが正しく敗血症を理解し、適切に対応できる医療環境」の実現を目指し、医療の質と患者予後の向上に具体的に貢献していく。

II. 活動計画

1) ガイドラインの普及強化

- ・医療従事者向けに、敗血症診療ガイドラインの要点を簡潔にまとめたコンテンツを作成・発信
- ・他学会学術集会・他団体と連携した、シンポジウムやワークショップの開催

2) 一般開業医・医療従事者向けの情報発信

- ・敗血症.com を日本集中治療医学会の公式サイト内に組み込み、アクセスしやすい形で新たに敗血症の基本知識に関する情報を提供。
- ・啓発活動は集中治療医学会のブランディング委員会と連携し、より広い範囲への認知拡大を図る

3) JaSAによる敗血症セミナーの継続

- ・3学会合同（日本救急医学会、日本集中治療医学会、日本感染症学会）でのJaSA活動は維持し、特に敗血症セミナー（Web）を継続する
- ・救急医学会・日本感染症学会との連携を強化し、敗血症合同委員会を通じた発信を推進

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

日本集中治療医学会委員のみの会議：年2回

3学会合同会議：年1回

ARDS診療ガイドライン作成統括委員会（Ad Hoc/日本呼吸器学会、日本呼吸療法医学会、日本集中治療医学会 合同）

I. 活動目標

- 1) クリニカル・クエスチョン（CQ）のシステマティック・レビューとメタ解析（～2025/5月）
- 2) パブリックコメント募集（～2025/7月）
- 3) ガイドライン本文執筆（～2026/2月）
- 4) 英語版作成（～2026/4月）

II. 活動計画

- ・2024年度から開始したシステマティック・レビューとメタ解析を完成させる
- ・ガイドライン本文（日本語・英語）を執筆する
- ・パブリックコメントを募集し対応する
- ・2026年4月発行を目指す

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

委員会打合せ 6回, パネル委員会 1回

重症患者リハビリテーション診療ガイドライン委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

SRを終え、EtDの評価を行う。

II. 活動計画

- ・委員によりブレインストーミングを行いガイドラインの扱う領域を決定する。
- ・委員とWGメンバーによりCQとPICOシートを作成する。
- ・パブリックコメントを行った後にCQを確定し、WGメンバーによるSRを実施する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

5回